

令和6年度 事業所における自己評価結果（児童発達支援・放課後等デイサービス）

公表

- ・世田谷区発達障害相談・療育センター
- ・子育てステーション烏山発達相談室
- ・子育てステーション桜新町発達相談室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか	○		・個別療育、グループ療育に対応する部屋を用意している。	・活動に合わせて備品等の配置を工夫するなどスペースの確保に努める。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか	○		・多動な子どもには1対1で関われる体制等を組んでいる。	・採用難のなかで、安定した組織体制を維持していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか	○		・室内には物をなるべく置かず、刺激の少ない環境にしている。	・バリアフリー構造の施設となっているが、利用児が安心して利用できるよう日頃から点検等を心掛けていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		・近年は感染症対応もあって衛生管理や環境の整備に留意している。	・ケースが続いてしまう場合に、活動後の清掃が困難などときがある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか	○		・個室があるため必要な場合に自由に使用できるようになっている。(セ)	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		・事業計画や業務目標を主任会で議論し職員で共有しながら策定している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	○		・評価結果やその対応等については主任会で議論し職員で共有している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	○		・様々な会議や委員会等の取り組みを通じて意見聴取がされている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		・第三者評価を行い、結果や改善策について職員研修会で共有した。	
	10	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか	○		・施設内の研修や外部研修制度等を設けたり、e-ラーニングも用意されている。	・ケース対応のため、職員が一斉に参加することは難しい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、療育プランを作成しているか	○		・面談などでこどもの課題や保護者のニーズを確認し、個人の状況に応じた療育プランを作成し、保護者に提案している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	13	療育プランを作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか	○		・利用者の担当と児童発達支援管理責任者が共通の理解をしている。	・利用者数が多いため、療育に携わる職員全体で全てのケースの共有は難しい。
	14	療育プランが職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか	○			
	16	療育プランには、児童発達支援ガイドライン等の『提供すべき支援』の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		・療育担当主任が原案を作成し担当職員全員で共有している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		・個人目標に合わせた段階的なプログラムを設定したり、時季に見合ったイベントを取り入れるなど工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる療育プランを作成し、支援が行われているか	○		・毎回机上課題を設定しているため、それが個別活動となっている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			・職員間の共有は密だが記録の作成に時間がかかってしまう。
	23	定期的にモニタリングを行い、療育プランの見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか	○			・半年に1度程度の見直ししかできていないが、モニタリングは行えている。
	24	（放デイ）放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか	○			
	25	（放デイ）こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか	○		・活動の内容やゲームの選択などこども同士で話し合う機会を作っている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか	○			
	28	（児発）併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			
	29	（児発）就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			
	30	（放デイ）就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			
	31	（放デイ）学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○		・保護者やこどもからの希望があれば必ず実施している。	
	32	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか	○			
	33	保育所や認定こども園、幼稚園、放課後児童クラブ、児童館等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか		○		
	34	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			
	35	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		・療育後のフィードバック時に保護者と話す機会を設けている。	・集団療育で保護者が多数の場合に時間がとれないことがある。時間が足りないときは要望に応じて別の日に面談の機会を設定して。
保護者への説明責任等	36	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか	○		・定期的にペアレントトレーニング等の保護者向けの学習会を開催している。	・チラシやホームページでお知らせしているが、周知が足りないとの意見を頂いている。
	37	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			
	38	療育プランを作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか	○			
	39	「療育プラン」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から療育プランの同意を得ているか	○			
	40	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	41	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか	○		・保護者を対象とした茶話会や学習会等を定期的に開催し、フリートークの時間も設けている。	
	42	こどもや保護者からの相談や苦情、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談等があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			
	43	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか	○		施設内の掲示やホームページで、イベントの案内や自己評価結果などの情報提供を行っている。	
	44	個人情報の取扱いに十分留意しているか	○			
	45	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			
	46	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか		○		
非常時等の対応	47	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		・ポケット版のしおりを職員向け、保護者向けにそれぞれ作成し周知に努めている。	・療育の回数が少ないことと利用者数が多いため、利用者が直接参加する訓練の開催が難しい。
	48	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・職員は、建物内の他の事業者と共同して訓練を行っている。	
	49	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○			
	50	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			
	51	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか	○			
	52	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか	○			
	53	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			
	54	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		・職員全体で研修会を開催している。	・職員により虐待の見立てについての捉えが異なることがあるため、共通認識が必要である。
	55	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、療育プランに記載しているか		○	・身体拘束は行わない。	